

【第2回調査結果（薬系大学 74校）】

復興支援に向けた大学間連携強化を目的としたアンケート

<p>問1 被災した薬系学部・大学に対して、大学あるいは学部として支援を行う意志がアルでしょうか。</p> <p>1. 支援を行う意志があり、既に支援を行っている（7大学） 2. 支援を行う意志があり、具体的に準備中である（1大学）</p> <p>3. 支援を行う意志があり、要請があれば支援を行う（43大学） 4. 未定あるいは検討中である（20大学）</p> <p>5. 支援を行う意志はない（1大学：被災地大学） 無回答（2大学：被災地大学）</p>

<p>問4 薬学会ホームページ上に復興支援コーナーを開設することを計画しています。このようなコーナーは必要と思われるでしょうか。</p> <p>1. 是非とも必要である（13大学） 2. 必要である（34大学）</p> <p>3. あってもよい（24大学） 4. どちらとも言えない（2大学）</p> <p>5. 必要ない（0大学：被災地大学） 無回答（1大学：被災地大学）</p>
--

大学名	問1	問2	問3	問4
	全大学	問1で1（既に支援を行っている）と回答した大学	問1で2（支援準備中）と回答した大学	全大学
北海道大学大学院生命科学院生命薬科学コース	3			1
北海道薬科大学	3			2
北海道医療大学薬学部	3			2
東北薬科大学	4			2
東北大学大学院薬学研究科	無回答	★その他 被災地ですので、特にお答えする箇所がありません。		無回答
新潟薬科大学薬学部	3			1
東京大学大学院薬学系研究科	2		・ 大学院生の受け入れを含めた研究面あるいは教育面での支援。 ・ 実験動物などの管理も相談に応じる ・ その他、被災された研究室の要望を聴取して対応可能なことは積極的に対応する	2
東京薬科大学薬学部	3			3
明治薬科大学	4			2
昭和大学薬学部	4			2
昭和薬科大学	3			1
星薬科大学	4		問4補足コメント：被災大学と支援大学の教室・研究室間の実施可能な事項のマッチングが重要	3
東京理科大学薬学部	3			2
慶應義塾大学薬学部	1	被災大学の大学院生の受け入れ		3
北里大学薬学部	3			2
千葉大学大学院薬学研究院	3			3
日本大学薬学部	3			2
東邦大学薬学部	4			2
城西大学薬学部	3	注：本学では家族または帰省先自宅が被災された学生が多く（全体では50名くらい、薬学部でも10名を超えます）、彼らの生活支援（授業料免除、新入生には入学金免除、アパートの無料貸し出し、生活費支援）を行うため、役職教員給与のカット、教員の寄付、学生へのボランティアを行っています。実験機器の損傷などは臨時予算で埋め合わせました。今までは他大の支援まで手が回らないという状況でした。本学では身近な被災者を守ることを一番に考えてきましたが、ようやく一段落しましたので東北の大学にも目を向けたいと思っています。		3
帝京大学薬学部	1	平成23年度入学生予定者については、地震の影響により直接的被害（家屋の損壊・家財の消滅等）間接的被害（学費支弁者の死亡・就業先の倒産等）を受け、修学困難になった学生に関して入学延期の措置をしている。延期による入学時期・・・平成24年4月在学生に関しては、被災証明・罹災証明等（今回の震災に関する証明）を提出し、学内で面接をしたうえで、学内ルールに従い学費全額免除等の措置をする。		3
静岡県立大学薬学部	3	学部としてではないが、東北地方の大学薬学部等に震災後物資を送付。大学院生受け入れを決定したが、実績はない。		3
富山大学薬学部	4			2
金沢大学医薬保健学域薬学類	3			3
北陸大学薬学部	3			1
名古屋市立大学大学院薬学研究科	1,3	1. について 震災直後に東北大学の他学部の院生を短期間（2週間程度）受け入れました。これは、先生間（当事者間）の話し合いで決まり学部として正式に認めました。学生が名古屋市立大学に来てこちらの設備を使って実験を行い、大学の施設内に宿泊しました。今は、実験が終わり大学に戻っています。	問4補足コメント：しかし、実際には、上記の1に書きましたように、必要に迫られた支援（要請）は、すでに当事者間で行われているのではないのでしょうか。	3
名城大学薬学部	3			1
岐阜薬科大学	3			2
京都薬科大学	3			2
京都大学大学院薬学研究院	3			2
大阪大学大学院薬学研究院	3			3
大阪薬科大学	4			2
近畿大学薬学部	3			2
摂南大学薬学部	3	問1補足コメント：人的な支援なのか物資・金銭の支援なのか。人的な場合、教員の支援なのか学生の支援なのか。支援の内容により、応じることができると思う。		2
武庫川女子大学薬学部	3	問1補足コメント：（その方向で検討する）。	問4補足コメント：（被災薬系大学、薬学部からのニーズの把握を優先）	2
神戸薬科大学	3			2
神戸学院大学薬学部	4			2
岡山大学薬学部	1	・ 医薬品、食料品、日用品等を送付した。 ・ 本学病院が組織する派遣医療チームに薬剤師として教員1名を参加させ、3月に約3週間薬剤業務を担当した。		1
福山大学薬学部	3			1
広島大学薬学部	3			2
徳島大学薬学部	3			2
徳島文理大学薬学部	3			2

【 第2回調査結果（薬系大学 74校）】

九州大学大学院薬学研究院	1	<p>(1) 救援物資や義援金等の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学 <ul style="list-style-type: none"> ・九州地区の11国立大学法人からの救援物資を九州大学でとりまとめた後、鹿児島大学「かごしま丸」により博多港から新潟大学まで搬送。国立大学協会の指示に基づき、新潟大学から物資を必要とする大学へ搬送。 ○歯学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・全国歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会の要請に応じて、東北大学歯学部からの要望リストに基づき、医薬品等を支援物資として提供。 ○薬学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ①薬学研究院の教員に大震災3日後の3月14日(月)に東北大学病院職員の支援のため食糧確保の協力を要請された。薬学研究院として対応し、まずは東北大学への物資輸送方法を探り(当時は輸送ルートが自衛隊以外なしという状況であった)、杏林大学経由で西濃運輸仙台支局止めならば可能であることを見出した。そこでその経路を利用して、とりあえず米20Kgと缶詰を西濃運輸仙台支局に送った。東北大学病院から西濃運輸仙台支局まで緊急車両を出していただき、無事に物資が病院に到着した。他にも要請があれば送付する。 ○工学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県水産部の水産廃棄物処理の情報収集、IT機器の支援への協力体制の整備を進めた。(大学間の分担・ネットワーク化・連携、岩手大学を拠点として各大学から送付)。 ・放射線測定器を西部ガスに2台貸与、福島ロータークラブに1台提供。 ○システム情報科学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・研究室の自発的支援として、3月29日に、永年の共同研究体制にある東北大学電気通信研究所の研究室に物資(食料品、飲料水、日用品、医薬品等)を送付した。 ②3月14日(月)に薬学研究院で義援金の募集を決定した。その後、薬学研究院がある馬出キャンパスで医学・歯学研究院と共同歩調を取ることにし、募金は赤十字社にお願いして現地へ届けていただくこととした。その後、全学で対応することが決定した。 <p>(2) 学生・研究者の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①薬学研究院 <ul style="list-style-type: none"> 東北大学大学院薬学研究院の学生(DC1年)1名を研究指導委託で薬学研究院に受け入れた。他にも希望者がいれば対応する。 ②農学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学大学院農学研究院から九大内での「遺伝子の解析」に関する実験の実施と研究継続のため学生(DC3年)の受入について依頼があり、農学研究院において4月12日から受入(宿舎については松原寮の1室を提供)。 ・被災した研究者・大学院生の研究継続を支援するため、研究環境を提供する旨のお知らせを農学部ホームページに掲載。 http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/ ③工学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・物質・材料研究機構(茨城県つくば市)にインターンシップ生として在籍していたスイス及びフランスの大学院生(各1名)を、4月19日～10月31日の期間、訪問研究員として機械工学部門で受け入れた。(宿舎については、伊都キャンパスのドミトリーの部屋を提供) ④システム情報科学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学大学院情報科学研究科の助教1名を3月18日～4月1日の間、受け入れ。 ⑤経済学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学大学院環境科学研究科准教授から、研究スペースの一時利用の依頼があり、共用スペースの一室を確保。(当該准教授は福岡への一時避難を終え、東北大学へ戻られた) ⑥法学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・被災した大学等研究機関の研究者(外国人を含む)および大学院生(留学生を含む)に、本院が有する研究施設等の利用の便宜を図り、研究活動が継続できるよう支援する旨を、法学部ホームページに掲載。 http://www.law.kyushu-u.ac.jp/tools/displaynews.php?id=113 ⑦医学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・医化学分野 東北大学大学院薬学研究院の助教1名の受け入れ(4/18～26)。 ⑧先導物質化学研究所 <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学多元物質科学研究所より学生・スタッフの受け入れについて打診があり、現在調整中。 ・筑波大学大学院数理物質科学研究科教授から、共同研究にかかる実験を前倒して行いたい旨依頼があり、博士課程大学院生1名を2日間受け入れて実験を実施。4月以降も筑波大学の復旧状況を見ながら支援を予定。 ⑨生体防御医学研究所 <ul style="list-style-type: none"> ・被災された大学等の方々に研究活動を滞りなく進めていただくため、「共同研究(被災研究者支援)」を募集中。(研究室が被災し、研究の遂行に支障をきたしている方々に対して、本研究所で研究の場を提供。) http://www.bioreg.kyushu-u.ac.jp/mib/activities_collabo.html ⑩宇宙環境研究センター <ul style="list-style-type: none"> ・地球電磁気・地球惑星圏学会を通じて、東北大学大学院理学研究科准教授より学生(学部4年生)1名の受け入れ依頼があり、3/29～5/6(予定)の間、受け入れ。 ⑪数理学研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学理学研究科、情報科学研究科のポスドク各一名を4月14日から5月6日まで受け入れ。 ⑫比較社会文化研究院 <ul style="list-style-type: none"> ・東北・関東方面の大学から実験施設の利用に関する協力依頼があり、横浜国立大学環境情報研究院から博士課程大学院生(4月10日～4月19日)、山形大学理学部から助教(5月13日～5月13日)及び修士課程学生(5月13日～当面)を受け入れ。 <p>(3) 被災した学生への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●入学手続き: 入学料の納入確認や入学手続き書類の受付については、個々の合格者の事情に応じて対応。 ●経済支援: <ul style="list-style-type: none"> ・災害救助法適用地域に主たる家計支持者が在住し、経済的困難を抱えている学生から申請があった場合、個々の事情を確認したうえで、下記①②を実施。また奨学金給付金の創設も検討。 ①入学料については、原則として全額免除 ②授業料については、個々の事情に応じて全額または半額免除 ●生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ①学生寮・ドミトリーの入居については、被災学生の優先入居を実施予定。 ②大学生協と連携し、伊都地区周辺のアパート(30戸程度)を、ドミトリー相当の家賃(月3万円)で、被災学生を対象に準備。 ●外国人留学生への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・英文による情報提供: <ul style="list-style-type: none"> ①ホームページを通じた情報提供 留学生、外国人研究者等、協定大学、留学生の家族宛てメッセージやQ&Aを作成し、送付・本学ウェブサイト掲載。 ②外国人研究者及び留学生向けセミナー 4月18日(月) ●被災地留学生の一時避難受入 <ul style="list-style-type: none"> 信州大学に留学中の学生(ベルギー:ルーベンカトリック大学から)3名を、ルーベンカトリックからの依頼により、香椎浜の留学生会館に一時避難として受け入れた(現在は信州大学に帰学)。 <p>(4) 被災地への医療支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療関係者の派遣 <ul style="list-style-type: none"> ●災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・3月12～14日、医師1名、看護師2名が、宮城県霞目駐屯地において活動。 ・3月12～13日、医師1名、看護師2名、事務職員1名が、航空自衛隊春日基地付地区(福岡)において広域搬送拠点医療施設活動を実施。 ●医師の派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・3月13日～15日、九州大学救命救急センターの医師(特別教員)1名が、日本医師会災害医療チームの一員として、福島県いわき市で救護活動を実施。 ・3月16日から、警察庁からの要請を受けて、助教(基礎医学部門法医学分野)1名が福島県相馬市で作業。 ・4月4日から5日間、福島県立医科大学より、福島県内で避難所生活中の精神疾患患者に対する医療支援について依頼があり、九州大学病院の精神科神経科医師3名を派遣。 ・4月18日から4月22日までの5日間、医師2名、看護師1名が福島県立医科大学の支援チームの指揮下に入り、福島いわき市の避難所等における心のケアに係る医療支援を実施。 ●歯科医師派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・本学歯学部(病院歯科部門を含む)から11名の教員を日本歯科医学会に派遣登録。(H23.3.24現在) (5) 薬剤師ボランティア活動 <ul style="list-style-type: none"> 九大病院薬剤部長より東北大学病院が調整している薬剤師ボランティアの打診があり、研究院長の許可のもと、2名の薬剤師職員が春休み期間の応募を希望した。だが、期間の調整が難航し、今回は見送ることにした。 	2
福岡大学薬学部	4		3
第一薬科大学	3		4
熊本大学薬学部	3		2
長崎大学薬学部	3		2
就実大学薬学部	4		1
九州保健福祉大学薬学部	3		1
青森大学薬学部	4		2
武蔵野大学薬学部	4		2
帝京平成大学薬学部	4		3
城西国際大学薬学部	3		2
千葉科学大学薬学部	3		3
日本薬科大学	3		3
広島国際大学薬学部	3		2
徳島文理大学香川薬学部	3		3
奥羽大学薬学部	無回答		1
国際医療福祉大学薬学部	3		3
金城学院大学薬学部	4		3
愛知学院大学薬学部	3		3
同志社女子大学薬学部	3		3
崇城大学薬学部	4	欄外コメント: 1. 大学ならびに薬学部独自で義勇金活動を行っている。 2. 薬系学部・大学に対する支援の内容に関する情報が不明である。 3. 遠方であるため、支援活動は支援内容による。	2
横浜薬科大学	4		2
高崎健康福祉大学薬学部	4		3
松山大学薬学部	3		1

【 第2回調査結果（薬系大学 74校）】

長崎国際大学薬学部	1	<p>長崎国際大学ボランティアセンター</p> <p>【目的】</p> <p>センターは、本学学生が自発的にボランティア活動を行うことにより学びを深める機会を積極的に促進するとともに、関係諸団体及び機関と連携し、地域社会及び国際社会への貢献に資する活動を支援することを目的とする。</p> <p>東日本大震災に関して現在までに行なった事</p> <p>1. 東日本大震災に関するボランティア活動について</p> <p>本学では、3月11日に起きた東日本大震災に対するさまざまなボランティア活動を行なってきましたのでご報告させていただきます。東日本大震災への物資仕分け作業ボランティアについて3月22日（火）～4月14日（木）の期間で本学、社会福祉学科の学生を中心に78名の学生が佐世保市広田町にあるみかん選果場で、佐世保市の各支所から集められた物資を、米、水、保存食、毛布、おむつ、生理用品等々に物資を振り分ける作業を行いました。</p> <p>ダンボールで運ばれてくる物資を一度開封し、中身の個数を確認の確認及びさらに細かく振り分けを行い、現地ですぐに活用できるような形で送り出すための作業です。ダンボールの外側に何が入っているかを書き記していきます。最終的にはトラックに積み込みを行い大村空港まで運搬する作業にも同行しました。他にも本学学生が取り組んだ活動内容は、早岐茶市での募金活動、留学生による街頭募金活動、上柿元シェフのもとチャリティー食事会の手伝い、学生が積極的にボランティア活動を行なっています。</p> <p>2. 第2回早岐茶市募金活動について</p> <p>長崎国際大学学生・九州文化学園高等学校学生による募金活動</p> <p>5月7日（初市）に続き、5月28、29日の2日間、東日本大震災のための募金活動を致しました。早岐茶市の最も賑わう中市（5月27、28、29日）の28日、29日に東日本大震災の募金活動を行ないました。28日は小雨の中、29日は台風が上陸するかも知れない日になりましたが、私たちは台風が避けることを祈るような気持ちで29日を迎えました。当日は台風の直撃からは避けられたものの、台風の余波で11時頃まで風がひどく、傘が役に立たず、小雨に濡れながら、寒さをこらえての募金活動になりました。悪天候も影響して5月7日とは比較にならないほど少ないお客さんでしたが、合計73,541円の義援金が2日間で集まりました。今回、早岐茶市の募金活動の総額は、177,094円もの募金が集まりました。ささやかではありますが、私たちの気持ちの一端が被災者に届くことを願うとともに、義援金が東日本大震災からの復興のために役立てられ、被災地の皆様方が一日も早く元気に明るい日々を迎えられることを祈っています。私たちは、今回の活動を通して、一般人の日本を思う気持ちの強さに感動し、このような日本人の連帯感の深さがある限り日本復興は早くなることを確信しました。</p> <p>NIJUAアジアボランティア 村松佑美 加藤加奈 九州文化学園高等学校 学生 中島陽子 馬場春菜</p>	2
大阪大谷大学薬学部	3		3
岩手医科大学薬学部	4	問1補足コメント：未定あるいは検討中である。	3
いわき明星大学薬学部	5		3
安田女子大学薬学部	3		3
兵庫医療大学薬学部	3		1
姫路獨協大学薬学部	3		4
立命館大学薬学部	4		2
鈴鹿医療科学大学薬学部	4		1